

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 前期（ 大学教育入門セミナー ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 11 (73%) 2. 4 (27%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 10 (67%) 2. 5 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 9 (60%) 2. 5 (33%) 3. 1 (7%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 9 (60%) 2. 6 (40%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 9 (60%) 2. 6 (40%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 13 (87%) 2. 2 (13%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 12 (80%) 2. 3 (20%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 8 (53%) 2. 7 (47%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 8 (53%) 2. 7 (47%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 10 (67%) 2. 5 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.～Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (7%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 4 (27%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 3 (20%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 4 (27%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 7 (47%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (7%)
- 4.その他： 5 (33%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 2 クラス (順不同)

- [1] この講義はオムニバス講義で、授業評価は科目を通した総合的な取り組み状況やコメントしかこないのが、個々の教員が授業評価から自分の担当回についての改善点を把握するのが難しいため、授業評価をもとにした授業改善が行っていない。代わりに授業の感想文をもとにした授業内容の改善を行っている。
- [2] レポート作成の過程において、2回にわたって評価（推敲・添削）を行ったり、見本となるレポートを使って説明するなど具体的に修正点を示した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 4 クラス (順不同)

- [1] 評価できる点は、研究室配属後の卒業論文作成を見越して、畜産業における課題の発見から解決法の模索、プレゼンテーション作成と発表までをグループワークを通じて実践させられたことです。
反省すべき点は、もう少し時間に余裕のあるスケジュールと、フォロー体制です。
最後の設問（問26）で提出する、講義資料3点のうち、大学教育入門セミナーでは、試験ではなくレポートを課しての評価になるので、②試験問題の代わりにレポートを、また、③試験答案で60点台の写しについては、レポートの最低評価点が90点だったので、そのレポート回答を報告します。
- [2] 教育について考えてもらい、4年間の目標・計画を考えたりと少しでも学生にキャリアプランを考える機会を与えることができたのではないかと思います。
また、グループ活動を通してテーマを考え発表する活動も取り入れた。
- [3] 本年度より本授業を担当したが、授業の進行をもう少しスムーズに行えればよかった。
- [4] 学生自身が考える時間を十分とりながら授業を進めていった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 13 (87%) 2.いいえ： 2 (13%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 3 (23%)
- 2.読んで理解する： 3 (23%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 10 (77%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 11 (85%)
- 5.討論する： 7 (54%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 11 (85%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 5 クラス (順不同)

- [1] 問14で回答したように、グループワークを通じて課題の発見から解決法の模索、プレゼンテーション作成と発表までを実践させることで、グループ内でコミュニケーションをとりながら、一つの課題を協力して解決する教育を行いました。
- [2] グループワークを実施した。
- [3] ディベートや読書会形式の発表などを行った。
- [4] 受講者を10班程度に分けて、グループワークに取り組みさせた。授業の後半では、各班で取り組んだ課題についてスライド資料にまとめさせ、プレゼンテーションさせた。
- [5] コミュニケーションのとり方を様々な方法で学ぶ (学生同士のコミュニケーション、グループワーク、プレゼンテーション)

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 12 (80%) 2.いいえ： 3 (20%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 7 (64%) 2.6回～10回： 4 (36%) 3.11回～15回： 1 (9%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 4 (33%) 2.政治・経済・産業： 6 (50%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 6 (50%) 4.その他： 4 (33%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 前期（ 大学教育入門セミナー ）

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 3 クラス（順不同）

- [1] 地域を題材とした課題解決に取り組む上で、資料や教材の利活用を促すために、大学図書館の共有スペースを活用してグループワークを実施しました。
- [2] グループごとに地域が抱える課題について調査して発表し、加えてレポートにまとめ、受講者間で相互評価した。
- [3] 「宮崎の将来の農林水産業や医療介護に貢献できるシステムについて提案せよ」という課題のもと、グループワークを行った。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 1 (7%)	2.10%以内： 1 (7%)	3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 0 (0%)	5.31%～40%： 2 (13%)	6.41%～50%： 1 (7%)
7.51%～60%： 1 (7%)	8.61%～70%： 3 (20%)	9.71%～80%： 2 (13%)
10.81%～90%： 1 (7%)	11.91%～100%： 3 (20%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 4 (29%)
- 2.双方向（対話・討論）： 8 (57%)
- 3.グループワーク： 13 (93%)
- 4.フィールド型： 5 (36%)
- 5.メディア活用： 5 (36%)
- 6.TA活用： 0 (0%)
- 7.その他： 1 (7%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 1 (7%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 2 (13%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

以下、各選択肢の右に該当クラス数 (全回答数に対する回答率) を記します。

A (Q1~Q10) : 授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1~4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 12 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 10 (83%) 2. 2 (17%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

(教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。)

1. 8 (67%) 2. 4 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 7 (58%) 2. 5 (42%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 7 (58%) 2. 5 (42%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

(授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為(私語など)に対して毅然として実施した。)

1. 8 (67%) 2. 4 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

(発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/

学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加(アクティブ・ラーニング)を促した、等)

1. 8 (67%) 2. 4 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 9 (75%) 2. 2 (17%) 3. 1 (8%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 8 (67%) 2. 4 (33%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標(ねらい)は達成された。

1. 10 (83%) 2. 2 (17%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.～Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (8%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 6 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (8%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (17%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 6 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (8%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：3クラス（順不同）

1. 授業評価に基づいてはいいないが、用いる統計データを受講者が自分で選べるようにシステムを改善した。
2. 自宅学習を促進するような課題の設定、講義内容の充実、PC作業を不得手とする学生のためのビデオコンテンツを重点的に改善した。
3. 講義内容を少し整理して、教える項目の整理を行った。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：2クラス（順不同）

1. 生徒が困った点があれば、サポートを行うという形でやっていたが、もっと生徒を接することを意識してもよかったのではないかと感じた。
2. 今年度は、AIに関するオンデマンド教材がふえたので、その分、情報リテラシーのオンデマンドの回数を減らして、対応した。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 前期（情報・データリテラシー）

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 7 (58%) 2.いいえ： 5 (42%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 5 (71%)
- 2.読んで理解する： 2 (29%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 2 (29%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 2 (29%)
- 5.討論する： 2 (29%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 3 (43%)
- 7.その他： 2 (29%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：4クラス（順不同）

1. エクセルの使い方を担当したが、技術的に分からないことは挙手して全体に質問する取り組みを行った。
2. 発問を用いた討論授業を毎時実施
3. 課題に対して、教科書だけではなく、周りの友達と相談して取り組むことを行った。
4. 班分けを7回行い、授業の最初に毎回アイスブレイクを行った。講義中わからないところは、相談して解決を計らせた。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 9 (75%) 2.いいえ： 3 (25%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 8 (89%) 2.6回～10回： 1 (11%) 3.11回～15回： 1 (11%)
未回答： 2 (22%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

- 1.歴史・文化： 2 (22%) 2.政治・経済・産業： 8 (89%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 6 (67%) 4.その他： 1 (11%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：3クラス（順不同）

1. 政府統計をグラフ化し、地域間の特徴を比較した。
2. 課題で宮崎を題材とした課題を出題して取り組ませた。
3. 県外出身の学生に、地元の友人に宮崎県を紹介するプレゼンテーションを想定したパワーポイントをレポートで作製させた。実際に発表はさせていない。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 2 (17%)	2.10%以内： 2 (17%)	3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 0 (0%)	5.31%～40%： 0 (0%)	6.41%～50%： 1 (8%)
7.51%～60%： 0 (0%)	8.61%～70%： 0 (0%)	9.71%～80%： 0 (0%)
10.81%～90%： 2 (17%)	11.91%～100%： 5 (42%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.少人数（10人程度）： 1 (10%)
- 2.双方向（対話・討論）： 4 (40%)
- 3.グループワーク： 2 (20%)
- 4.フィールド型： 1 (10%)
- 5.メディア活用： 4 (40%)
- 6.TA活用： 8 (80%)
- 7.その他： 1 (10%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 1 (8%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 1 (8%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 16 (89%) 2. 2 (11%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 9 (50%) 2. 9 (50%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 8 (44%) 2. 10 (56%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 10 (56%) 2. 7 (39%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (6%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 6 (33%) 2. 12 (67%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 8 (44%) 2. 10 (56%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 11 (61%) 2. 7 (39%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 13 (72%) 2. 4 (22%) 3. 1 (8%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (6%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 7 (39%) 2. 10 (56%) 3. 1 (6%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 7 (39%) 2. 10 (56%) 3. 1 (6%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 3 (17%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 6 (33%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (11%)
- 4.その他： 4 (22%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 3 (17%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 9 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (11%)
- 4.その他： 2 (11%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：9クラス (順不同)

1. 授業で使用するテキストが少し易しいとの学生からの評価を受けて、今年は難易度の高いテキストを使用してみた。
2. 昨年、授業で扱うテキストが少し易しいとの学生評価を受けたので、今年はテキストの難易度を高いものに変更した。
3. アクティブ・ラーニングを大幅に導入した。
4. アクティブ・ラーニングを大幅に導入した。
5. 前学期の学生からの意見を基に、課題の量を調節し、1つのトピックに対してより多くの学習時間を設けるように努めた。
6. 研究学習と課題学習のバランスが良かった。
7. 前学期と同じ内容だった為、今回は学生が苦手と感じるであろう部分がある程度把握できた為、授業内での解説時間の配分を調整することが出来た。
8. 生徒にもっと批判的に考えさせようとしている。
9. Included more listening practice for students

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：9クラス (順不同)

1. 学生の学力に差がみられる。進学校出身者に比べて専出身者出身者は英語の授業時数も少ないため、どうしても学力は低くなる。そのような学生への課題あるいは補習などは必要なかどうか悩ましい課題である。
2. 学生の学力には差がある。進学校出身者だけでなく、専門学校出身者もいる。お互いに学び合うよい機会だとは考えているが、語彙力、文法力等の点で力のない学生にとっては、説明する時間が必要になることも多い。学力の低い学生への特別な課題なり、補習なり必要かどうか悩ましいところである。
3. アクティブ・ラーニングが機能した。
4. シラバスに沿い、学生の理解度に合わせて授業を実施した。学生の発言を促してはいたが、今後はより学生が発言をする機会を多く作れるよう、授業づくりを工夫したい。

5. アクティブ・ラーニングが機能した。
6. グループ課題の作業量がグループ間で大きく異なる課題があった為、作業量の調整を行いたい。
7. 中間研究活動は改善され、歴史を学ぶ課題に置き換えることができるだろう。
8. 板書ではなくパソコンに打ち込んだ内容をプロジェクターで投影していたが、その内容の保存は行わなかった。
表示した内容を授業後も学生が閲覧可能な、学生と教員間で相互アクセスが出来る共有ファイルを作成し、授業内容を記入する必要があると感じた。
9. 生徒たちに症状と疑問を結びつけさせようとしている。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：2クラス（別添参照：2クラス分とも同様の資料）

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 18 (100%) 2.いいえ： 0 (0%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 13 (72%)
- 2.読んで理解する： 16 (89%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 8 (44%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 12 (67%)
- 5.討論する： 5 (28%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 6 (33%)
- 7.その他： 1 (6%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：5クラス（順不同）

1. 授業の目的が読む・書くということであるため、とにかく、読む力を育むことと、英語で表現する力の育成をめざした。
2. この授業の目的は、読む・書くであるので、この2つのスキル向上をめざして授業を進めた。
3. 配布資料を基にプレゼン資料を作り、学生間でプレゼンテーションを行った。各授業の最初にウォームアップとして、会話トピックを公開し、グループ間で英語で意見交換を促した。また会話の中で、英語で表現できなかった内容を毎週の課題として、英語で提出する課題を作成した。
4. 看護師が使用するであろう定型文の紹介から、グループ内でその表現の日本語を表示して英語表現を思い出して発言する活動を頻繁に行った。 またリスニング問題解答後は、ペアワークでスクリプトの音読を行い、発音の向上を行った。
5. 小グループ活動

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 0 (0%) 2.いいえ： 18 (100%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%) 2.6回～10回： 0 (0%) 3.11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 0 (0%) 2.政治・経済・産業： 0 (0%)
3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%) 4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

E(Q23～Q24) : 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 2 (11%) 5.31%～40%： 3 (17%) 6.41%～50%： 4 (22%)
7.51%～60%： 2 (11%) 8.61%～70%： 2 (11%) 9.71%～80%： 1 (6%)
10.81%～90%： 1 (6%) 11.91%～100%： (17%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 2 (11%) 2.双方向（対話・討論）： 7 (39%)
3.グループワーク： 16 (89%) 4.フィールド型： 0 (0%) 5.メディア活用： 8 (44%)
6.TA活用： 0 (0%) 7.その他： 1 (6%)

F : 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 7 (39%)
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 13 (72%)
3.英語のみで板書している： 8 (44%)

- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 4（22%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 11（61%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 4（22%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 8（44%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 4（22%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 9（50%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 8（44%）

以下、各選択肢の右に該当クラス数 (全回答数に対する回答率) を記します。

A (Q1~Q10) : 授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1~4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 22 (92%) 2. 2 (8%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 24 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

(教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。)

1. 21 (88%) 2. 3 (13%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 23 (96%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (4%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 20 (83%) 2. 4 (17%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

(授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為(私語など)に対して毅然として実施した。)

1. 24 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

(発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/

学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加(アクティブ・ラーニング)を促した、等)

1. 20 (83%) 2. 4 (17%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 23 (96%) 2. 1 (4%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 19 (79%) 2. 5 (21%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標(ねらい)は達成された。

1. 22 (92%) 2. 2 (8%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (4%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 11 (46%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 9 (38%)
- 4.その他： 6 (25%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (29%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 12 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 10 (42%)
- 4.その他： 6 (25%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：11クラス (順不同)

1. 小テストの頻度を増やした。
2. 小テストの頻度を増やした。
3. 小テストの頻度を増やした。
4. 学生の学習意欲が弱まっているので、丁寧に説明し、少し進度が遅れ気味だったが、解かり易さを優先した。
5. 小テストの頻度を増やした。
6. 会話練習を重視して授業を実施した。
7. 今回は初めて席を決めてペアで会話練習ができるようにしたことがとてもよかった。次回もこの方法でしたい。
8. 小テストの頻度を増やした。
9. 今回は初めて席を決めてペアで会話練習ができるようにしたことがとてもよかった。次回もこの方法でしたい。
10. 初修外国語が半期のみ必修となったことの影響は大きく、学生の意欲は弱まった。それに対応した授業を行った。
11. 昨年はDVD及びCDのリモコンの使用法に慣れていないために、学生に手伝ってもらうことが何回かあった。今回はリモコンの使用にかなり慣れたので、学生に手伝ってもらうことはあまりなかった。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：6クラス (順不同)

1. 学生は半期のみ必修となってから意欲が落ちている。それを考慮した上で授業を行った。それは良かったと思う。
2. リスニングの方はもっとやるべきです。
3. 期末試験を二回に分けてした方が良かったかなと反省している。一日に筆記と口頭テストを同時にするのは時間的にきつかった。学生が多くなったことも考えて時間を配分すればよかった。
4. 期末試験を二回に分けてした方が良かったかなと反省している。一日に筆記と口頭テストを同時にするのは時間的にきつかった。学生が多くなったことも考えて時間を配分すればよかった。
5. 説明の重要ポイントを明示して、余分な労力をかけずに学生が学習を効率的に行えるよう指導した。

6. 特記事項はありません。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 23 (96%) 2.いいえ： 0 (0%) 未回答： 1 (4%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 21 (91%)
- 2.読んで理解する： 23 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 4 (17%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 11 (48%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：8クラス (順不同)

1. 映画鑑賞後のレポート課題を課した
2. 映画鑑賞後のレポート課題を課した
3. 映画鑑賞後にレポート課題を課した。
4. 映画鑑賞後にレポート課題を課した。
5. グループで練習すること
6. 韓国語で簡単な挨拶や質問などができるようにした。
7. 映画鑑賞後にレポート課題を課した。
8. 言語はコミュニケーションの手段ですから、コミュニケーションの能力の育成は重視しました。特に（ドイツ人が話している）DVD及びCDを毎回使用しました。言語はコミュニケーションの手段であるという考えには反対する言語学者もいますが、今はこの論争には触れません。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 1 (4%) 2.いいえ： 21 (88%) 未回答： 2 (8%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 1 (100%) 2.6回～10回： 0 (0%) 3.11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化： 1 (100%) 2.政治・経済・産業： 0 (0%)
3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%) 4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス (順不同)

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合(1回の授業における割合は問いません) → 20%

1.0%： 1 (8%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 1 (4%)
4.21%～30%： 0 (0%) 5.31%～40%： 6 (25%) 6.41%～50%： 11 (46%)
7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 0 (0%) 9.71%～80%： 0 (0%)
10.81%～90%： 0 (0%) 11.91%～100%： 4 (17%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

1.少人数(10人程度)： 1 (5%) 2.双方向(対話・討論)： 11 (50%)
3.グループワーク： 15 (68%) 4.フィールド型： 0 (0%) 5.メディア活用： 14 (64%)
6.TA活用： 1 (5%) 7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
2.授業の一部(重要なポイントの説明等)を英語で行っている： 11 (46%)
3.英語のみで板書している： 0 (0%)
4.重要な語句(専門用語)あるいは説明だけを英語(一部英語併記)で板書している： 5 (21%)
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語(一部英語併記)を使用している： 0 (0%)
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 0 (%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 0 (0%) 2. 0 (0%) 3. 1 (100%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 0 (0%) 2. 1 (100%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.～Q15) : F D活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだF D活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のF D講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のF D活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているF D活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (100%)
- 2.学内外のF D講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のF D活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：0クラス (順不同)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このF D活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：0クラス (順不同)

Q15.F D活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

- 1.はい： 1 (100%) 2.いいえ： 0 (0%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 1 (100%)
- 2.読んで理解する： 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 0 (0%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：0クラス（順不同）

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 0 (0%) 2.いいえ： 1 (100%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%) 2.6回～10回： 0 (0%) 3.11回～15回： 0 (0%)

未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 0 (0%) 2.政治・経済・産業： 0 (0%)

3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%) 4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 1 (100%)

4.21%～30%： 0 (0%) 5.31%～40%： 0 (0%) 6.41%～50%： 0 (0%)

7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 0 (0%) 9.71%～80%： 0 (0%)

10.81%～90%： 0 (0%) 11.91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%) 2.双方向（対話・討論）： 0 (0%)

3.グループワーク： 0 (0%) 4.フィールド型： 1 (100%) 5.メディア活用： 0 (0%)

6.TA活用： 0 (0%) 7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 前期（ 専門基礎 ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 13 (93%) 2. 1 (7%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 11 (79%) 2. 3 (21%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 10 (71%) 2. 4 (29%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 12 (86%) 2. 2 (14%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 6 (43%) 2. 8 (57%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 12 (86%) 2. 2 (14%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 11 (79%) 2. 2 (14%) 3. 1 (7%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 9 (64%) 2. 4 (29%) 3. 1 (7%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 10(71%) 2. 4 (29%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 12 (86%) 2. 2 (14%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (7%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 9 (64%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 3 (21%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (14%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 10 (71%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 3 (21%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 6 クラス (順不同)

- [1] 自習課題の量を増やし、その解説を充実させた。板書を多用し、学生の学習意欲向上と理解の促進を図った。
- [2] 毎回の提出課題について、できていない部分を指摘して返却するようにした。
- [3] わかりやすい、理解しやすいように説明した
- [4] 実地指導講師の授業内容と大学教員の授業内容との関連づけを意識した。
- [5] 動画の活用が好評のため、今年度も動画を多用した。情報のアップデートを意識し、日々進歩する研究が反映されているかどうかを確認しながら採用した。
- [6] 反転授業をさらに進め、授業中に行う演習問題を改良した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 3 クラス (順不同)

- [1] 後方座席で受講した学生から「板書が見えない」と指摘された。板書の内容を印刷可能な資料としてWebClassで提供するようにした。
- [2] 授業を進めながら、テキストの問題の解答例や補足する分などについては私的に作成したホームページを紹介し、参照にすることを促した。
- [3] 成績評価方法を昨年度と比べて大きく変えたため、学生の成績が大きく変わってしまった。もう少し緩やかな変更となるように工夫するべきであった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 4 (29%) 2.いいえ： 9 (64%) 未回答： 1 (7%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 3 (75%)
- 2.読んで理解する： 4 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 2 (50%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 0 (0%)
- 5.討論する： 2 (50%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 1 (25%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 1 クラス (順不同)

[1] 学生同士で教えあうことをさせた

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 3 (21%) 2.いいえ： 11 (79%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 2 (67%) 2.6回～10回： 1 (33%) 3.11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 0 (0%) 2.政治・経済・産業： 1 (33%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 1 (33%) 4.その他： 2 (67%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス (順不同)

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 6 (43%)	2.10%以内： 2 (14%)	3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 0 (0%)	5.31%～40%： 0 (0%)	6.41%～50%： 0 (0%)
7.51%～60%： 0 (0%)	8.61%～70%： 0 (0%)	9.71%～80%： 1 (7%)
10.81%～90%： 0 (0%)	11.91%～100%： 3 (21%)	

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%)	2.双方向（対話・討論）： 1 (17%)	
3.グループワーク： 2 (33%)	4.フィールド型： 0 (0%)	5.メディア活用： 4 (67%)
6.TA 活用： 0 (0%)	7.その他： 3 (50%)	

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 4 (29%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (100%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 1 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 1 クラス（順不同）

[1] この講義は留学生対象の科目で、昨年度まではコロナ対策の国際移動制限等の影響でかなり特殊な状況にあったので、講義環境が全く違い、昨年度までの内容と今年の内容を比較できない。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 0 クラス（順不同）

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

教員 FD 活動レポート (基礎教育) R5 前期 (専門教育入門セミナー)

C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい : 1 (100%) 2.いいえ : 0 (0%) 未回答 : 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する : 0 (0%)
- 2.読んで理解する : 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す : 1 (100%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる : 1 (100%)
- 5.討論する : 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする : 1 (100%)
- 7.その他 : 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答 : 1 クラス (順不同)

[1] 学生のプレゼンテーション発表を行った。

D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域 (宮崎) を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい : 1 (100%) 2.いいえ : 0 (0%) 未回答 : 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回 : 0 (0%) 2.6回～10回 : 1 (100%) 3.11回～15回 : 0 (0%)
未回答 : 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化 : 0 (0%) 2.政治・経済・産業 : 1 (100%)
3.自然環境・フィールド体験 : 1 (100%) 4.その他 : 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答 : 0 クラス (順不同)

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 0 (0%)
 4.21%～30%： 0 (0%) 5.31%～40%： 1 (100%) 6.41%～50%： 0 (0%)
 7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 0 (0%) 9.71%～80%： 0 (0%)
 10.81%～90%： 0 (0%) 11.91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 1 (100%) 2.双方向（対話・討論）： 1 (100%)
 3.グループワーク： 0 (0%) 4.フィールド型： 0 (0%) 5.メディア活用： 1 (100%)
 6.TA 活用： 0 (0%) 7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 1 (100%)
 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
 3.英語のみで板書している： 1 (100%)
 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
 5.英語のみの教材・資料を使用している： 1 (100%)
 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 1 (100%)
 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 1 (100%)
 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 1 (100%)
 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 1 (100%)

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 5 (71%) 2. 2 (29%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 7 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 7 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 6 (86%) 2. 1 (14%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 6 (86%) 2. 1 (14%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 7 (100%) 2. 0 (0%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 4 (57%) 2. 2 (29%) 3. 0 (0%) 4. 1 (14%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 4 (57%) 2. 0 (0%) 3. 2 (29%) 4. 1 (14%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 5 (71%) 2. 2 (29%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 5 (71%) 2. 2 (29%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 前期（環境と生命）

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 1 (14%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 1 (14%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 4 (57%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：3クラス（順不同）

1. 全学部学生がいることから、専門的内容や用語への理解を促すように説明を工夫するなど改善した。
2. この講義は多数の教員が入れ替わり担当する講義で、授業評価は講義全体を通した一括の評価が来るので、個々の担当教員にとっては授業評価に基づく改善点の把握が難しい。また、昨年度まではコロナの影響でグループワークを控えていたが、今年はポストコロナでグループワーク主体の講義内容としたため、昨年度とは状況と内容が全く違うので、状況に応じた講義内容の改善はしているが、昨年度の評価に基づく改善をしたわけではない。
3. この科目はオムニバス担当科目だが、授業評価は個々の担当者に対するものではなく講義全体に対してくるので、改善に使いにくいいため、講義改善に授業評価を使っていない。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：1クラス（順不同）

1. 昨年度まではコロナ感染対策で対面でのグループワークを控えていたが、今年からグループワークを再開した。より効率的なグループワークの方法を考えていきたい。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 4 (58%) 2.いいえ： 3 (43%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 2 (50%)
- 2.読んで理解する： 2 (50%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 3 (75%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 3 (75%)
- 5.討論する： 2 (50%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 3 (75%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：2クラス（順不同）

1. グループディスカッション
2. グループワークによるコミュニケーション能力の育成。発表によるコミュニケーション能力の育成。また他者の発表を聴講することによる発表技術の習得促進、を行った。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 4 (57%) 2.いいえ： 3 (43%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 4 (100%) 2.6回～10回： 0 (0%) 3.11回～15回： 0 (0%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 0 (0%) 2.政治・経済・産業： 1 (25%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 3 (75%) 4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：1クラス（順不同）

1. 県内で発生した事例をテーマに進めた。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 3 (43%) 2.10%以内： 0 (0%) 3.10%～20%： 0 (0%)
4.21%～30%： 1 (14%) 5.31%～40%： 1 (14%) 6.41%～50%： 0 (0%)
7.51%～60%： 0 (0%) 8.61%～70%： 0 (0%) 9.71%～80%： 2 (29%)
10.81%～90%： 0 (0%) 11.91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

1.少人数（10人程度）： 0 (0%) 2.双方向（対話・討論）： 1 (25%)
3.グループワーク： 4 (100%) 4.フィールド型： 0 (0%) 5.メディア活用： 0 (0%)
6.TA活用： 0 (0%) 7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。(複数チェック可)

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
3.英語のみで板書している： 0 (0%)
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 2 (29%)
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R5 前期（ 学士力発展科目 ）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 35 (88%) 2. 5 (12%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 26 (65%) 2. 13 (32%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 28 (70%) 2. 11 (27%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 28 (70%) 2. 10 (24%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 1 (3%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 26 (65%) 2. 12 (30%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 30 (74%) 2. 9 (23%) 3. 1 (3%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 21 (53%) 2. 15 (37%) 3. 4 (10%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 22 (55%) 2. 12 (30%) 3. 5 (12%) 4. 1 (3%) 未回答 0 (0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 23 (58%) 2. 15 (37%) 3. 2 (5%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 29 (73%) 2. 11 (27%) 3. 0 (0%) 4. 0 (0%) 未回答 0 (0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 8 (20%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 24 (60%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 5 (13%)
- 4.その他： 5 (13%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 6 (15%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 25 (63%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 10 (25%)
- 4.その他： 5 (13%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答： 13 クラス（順不同）

- [1] 近代史全般や空襲に関する内容を追加した。
- [2] 板書については毎年数人に指摘されており、丁寧に書こうと心掛けているが、講義時間との関係上、どうしても全学生に満足されることは難しい、しかし改善の余地があると常に考えている。講義中の音量であるがコロナ禍のマスク着用での授業で、学生には十分聞き取れなかった部分もあったかと反省している。
- [3] リーディングアサインメント、映像教材の変更。遅刻者の確認方法の緩和。
過去の授業との関連性の説明に時間をかけた。
大学教育改革が向かう方向に関する説明に時間をかけた。
- [4] 自習のために、回ごとに簡単な練習問題を webclass に掲載した。効果の程についてはまだよくわからないので、来年度も継続したいと考えている。
- [5] 講師からの一方的な講義を改善するために、課題に対して少人数でディスカッションする時間を設けた。
- [6] 昨年度に続き、押し付けにならないよう学生の実態に配慮しながら、柔軟に展開している。
学生の応答もよく、よりスムーズに授業を進行できたと考える。
- [7] 昨年度の評価というよりも、今年度の受講生に合わせて、工夫、改善を行うことを意識した。
- [8] よりアウトプットさせるために、留学生等との国際交流を増やした。
- [9] 昨年度の実施状況を踏まえ、授業スライドの充実を図った。
- [10] 授業アンケートの改善することを改善した。
- [11] 私はこのコースを完全に再設計した。
- [12] 今学期はコースを完全に変えた。
- [13] 学期後半の内容を暗記メインから、一部コミュニケーション活動に変更し、学んだ英単語、英語表現を用いて実際にコミュニケーションをとる練習を行った。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 13 クラス（順不同）

- [1] 教師の授業に臨む姿勢と熱意を見せるため、講義開始7～10分前に毎回教室に入室し、開始のチャイムが鳴ると同時に授業を始めることを実践した。また、私語をする学生には、毅然たる態度で私語の制止を求め、聞き入れない者には退室を命じている。
- [2] 授業後学生が教室に残り、雑談に花が咲くのは対面の利点であり、この授業の特徴である。
- [3] 授業準備の時間など、無駄な時間をさらに減らしていきたい。
- [4] 自身が風邪気味で体調が優れない状態で授業を実施したことは、学生を不安にさせることになった。少人数であれば休講にして、別途補講を行うこともできると思うが、人数が多い場合には、休講にする決断が難しい。今後、自身の体調管理により留意していきたい。
- [5] 前回の講義の質問を回答するなど掘り下げた学びにつなげた
- [6] テストは少し難しかった
- [7] 授業内で使用した教材は初めて使用した為、学生への分かりやすい解説が行えていない部分があった。また、使用教材以外に理解度を高めるために補助的な教材を他の授業では作成しているが、こちらも準備が出来なかった。学期を終えて、学生が学んだ内容や、困難と感じた部分を把握する事が出来た為、来学期に活かしていきたい。
- [8] 中間評価ではロールプレイに挑戦し、最終テストではさまざまなスコアが出た。
- [9] コースにはとても満足している。中間ロールプレイはやりがいがあり、最終テストは生徒の勉強量によって点数に幅がありました。
- [10] 期末試験のプレゼンテーションの準備期間が1週間と短かった為、プレゼン内容の発表を2週間前に行う必要があらと感じた。
- [11] 英語での説明の際に早く話しすぎる場合がある為、ペースを調整する必要があると感じた。
- [12] 医学専門用語は可能な限り使用せず、平易な言葉や単語を用いて学生の理解を深める様に尽力した。
- [13] オンデマンド講義の効果的な活用を次年度に向けて検討する。そのためにも対面講義との連関をどう図るか検討する。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出： 0 クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 25 (63%) 2.いいえ： 15 (37%) 未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 23 (92%)
- 2.読んで理解する： 13 (52%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 15 (60%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 14 (56%)
- 5.討論する： 13 (52%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 8 (32%)
- 7.その他： 2 (8%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答： 10 クラス（順不同）

- [1] 授業では適宜、無差別に学生を指名して復習を兼ね質問し、自己の考えを短時間で整理し、他者の前で解り易く説明することにした。しかし、これも数回しか実践できず、時間の制約があり充分効果を上げることはできなかった。今後の課題であると同時に工夫を考えてみたい。
- [2] デーバート、レポートの書き方の指導、レポートによる定期試験。
- [3] 学生がグループやペアに分かれて活動するシーンが多くあったが、都度、学生同士で話し合っって課題に取り組むような展開にした。教え合いや意見交換、あるいは相互の体調への気遣いなどの交流を図りながら取り組む姿があった。
- [4] よりアウトプットさせるために、留学生等との国際交流を増やした。
- [5] グループワークを増やした。
- [6] リスニング問題解答後のペアワークによる音読と、重要な英単語、英語表現を含んだ会話文の作成を行う課題を各ユニットで取り入れた。
- [7] 医師と患者、医師と医師とのコミュニケーションの練習が多い。
- [8] 私とではなく、グループ内の学生間でのコミュニケーションを頻繁に取るように努めました。同世代の学生間ではコミュニケーションを取ることがより容易であると感じたため、英語を用いたコミュニケーションは学生間をメインに行った。
- [9] 教員とではなく、学生間でのコミュニケーションを重視した。学生個人が問題を解いた後、グループ間で答え合わせと解説を行う取り組みを多く取り入れた。
- [10] ペアワークや4名程度のディスカッションを適宜入れながら学習を進めていくこととした。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 9 (23%) 2.いいえ： 31 (78%) 未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 3 (33%) 2.6回～10回： 4 (45%) 3.11回～15回： 2 (22%)
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 5 (56%) 2.政治・経済・産業： 5 (56%)
3.自然環境・フィールド体験： 5 (56%) 4.その他： 3 (33%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス（順不同）

[1] 県等より講師派遣の協力を得て地域の国際化の現状などについて講義いただいた。

[2] 研究で得られた知見をわかりやすく説明。

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%
1.0%： 6 (15%) 2.10%以内： 6 (15%) 3.10%～20%： 4 (10%)
4.21%～30%： 7 (18%) 5.31%～40%： 2 (5%) 6.41%～50%： 3 (8%)
7.51%～60%： 1 (3%) 8.61%～70%： 1 (3%) 9.71%～80%： 2 (5%)
10.81%～90%： 2 (5%) 11.91%～100%： 6 (15%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 12 (35%) 2.双方向（対話・討論）： 14 (41%)
3.グループワーク： 20 (59%) 4.フィールド型： 4 (12%) 5.メディア活用： 12 (35%)
6.TA活用： 0 (0%) 7.その他： 3 (9%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 7（18%）
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 5（13%）
- 3.英語のみで板書している： 5（13%）
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 7（18%）
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 7（18%）
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 7（18%）
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 3（8%）
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 5（13%）
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 7（18%）
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 5（13%）